

令和5年度第1回史跡めぐり

「香取神宮・伊能忠敬記念館・佐原町並み散策」

令和5年10月5日（木）実施

1. 「香取神宮」



今年の暑さがどこかに行き、朝は涼しいくらいの天気でしたが昼過ぎには暑さが戻ってきました。総勢43名で区役所横から千葉県香取市の香取神宮を目指して午前8時に出発。中野通り、青梅街道を經由し、西新宿から首都高へ、昔は大渋滞で動かなかった千駄ヶ谷あたりもそれほどの渋滞ではなく、迎賓館下のトンネルを通り、千鳥ヶ淵を眺めながら京葉道路へ、その後は順調に走行し、途中幕張SAで休憩を取り、香取市の香取神宮へ。長い参道を歩かないで少しでも歩く距離を短くするために第2駐車場に10時15分ごろに到着。

神宮では、神主の方の説明を受け本殿の周りを廻りました。御祭神は経津主大神（ふつぬしのおおかみ）で、武道・建国の神とされています。

又、昔は20年ごとの式年遷宮を行っていたようですが今はおこなわれていません。しかし壁の塗り替えが行われており漆が新しく綺麗になっていました。色が現在は、漆の黒色ですが昔は朱色だったそうです。

千木の先端が垂直の神社は、男神。水平の神社は女神が、また、鯉木が奇数なら男神、偶数なら女神が祀ってあるという説があるとの説明がありました。

2. 伊能忠敬記念館



伊能忠敬は、佐原の名主を務めており、家業は酒造業を営んでいました。記念館とは小野川をはさんで旧宅が残っています。

1800年55歳で日本地図を作成するために幕府からの命により蝦夷地に向かい海岸を一步ずつ歩いて測量し、歩けない海岸では船から縄をはり測量し精密な海岸線を描きました。

測量法としては、「導線法（どうせんほう）」を用いています。現地点から目印の棒までの距離と方角を測りながら進んでいく測量法です。

蝦夷地の測量開始から14年後にほぼ全国を回ったあと地図の仕上げにかかります。しかし、完成前の73才で亡くなり、その後弟子たちが1821年に完成させました。「大日本沿海輿地全図」として幕府に納めました。

3. 食事



昼食は、佐原の町の中にある香取屋本店の2階で大名御膳を。

2階が座敷のため急遽1階に椅子の席を作ってもらったために、配膳がてんやわんやとなりなかなか食事が出てこないなどゆっくり食事が出来ない状況でご迷惑をおかけしました。

4. 佐原の町並み



昼食後は、江戸時代には「水運」で栄え「北総の小江戸」と呼ばれている佐原の町並み散策です。

町並み交流館に移動し、ガイドさんと合流後、小野川沿いの町並みを散策しました。平成8年12月関東では初めて「重要伝統的建造物保存地区」に選定されています。昔からの家業を引き継いで、今でも営業を続けている商家が多くあります。江戸・明治・大正・昭和初期の町家・土蔵・レンガ造りの情緒あふれる建物が残っています。

町並み交流館が入っている建物は、旧三菱銀行佐原支店でレンガ造りの洋館建物で2階周囲に回廊があり、内部が見学できます。大正3年に清水建設の前身である清水満之助商店により建設された。

また、CMでも放送されている「樋橋」(川を挟んで反対側にある水田に農業用水を運ぶ橋)からちょうど水が流れていました。「じゃあじゃあ橋」ともいわれています。

伊能忠敬の旧宅、家業の酒造業を営んでいた建物の説明を受けました。伊能忠敬が佐原で30年余りを過ごした母屋と店舗がそのまま残されている。母屋は寛政5年(1793)忠敬自身が設計したものといわれている。



- 植田屋荒物店の土蔵の見学
 - 正文堂には登り龍、下り龍を配した看板がついています。
 - 小堀屋本店では、表のガラス戸が明治 35 年にこの町で初めて使われたものです。
- など小野川沿いの商家を見学しました。
- その後、道の駅「さわら」に寄りお土産などを求め帰途につきました。